



前川 雅志
議員
(政風クラブ)

問

昨年11月の議会報告会において、役場庁舎を新築するだけでは活性化されない。同時に活性化と過疎とならないことを考えるべきという意見が出た。

- (1)平成25年に129人の転入超過となった要因、人口の推移と予測は。
- (2)国道38号線の交通量と4車線化とバイパスについての開発との協議は。
- (3)空き店舗や廃屋等、街並みの再開発の考えは。
- (4)忠類地域住民会議の評価は。
- (5)過疎でも元気なまちづくりを行う議論を重ねる必要がある。活性化と過疎対策をどう考えるか。

町長 (1)転入超過の要因は、消費税増税の後押しを受け、堅調に推移した新築住宅の建設によるものと見込んでいる。合併直後の平成18年2月末と本年5月末の人口の比較では、町全体で2万7502人から2万7691人の189人、0.7%の増であり、今後の予測は、死亡者数が出生者数を上回り自然減が続く状況下で、幕別地区、忠類地区は

問 幕別町の活性化と過疎対策をどう考えるか
答 各自治体の成功事例の研究や大学の知恵を借りるなどして取り組みを推進していく

減少する傾向、札内地区は、ここ数年は微増が続くものと推測している。

(2)開発建設部の考えは、道東自動車道が釧路まで開通し、その後の交通体系の変化を見極めた上で国道38号線の道路整備について検討したいというもので、今後とも国との協議に向けて、意見交換や情報収集に努めていきたい。

- (3)商店街活性化店舗開店等支援事業、創業等支援制度、中小企業融資制度により、事業を継続しやすい環境づくりに努めてきた。
- 空き家、廃屋等は個人の資産・財産であり慎重な判断と対応が求められるが、さまざまな課題を整理した上で、商工会などからも意見を聞き、検討していきたい。
- (4)これまで延べ136件の町への提言を受け、町や各種団体などが実践してきた取り組みは73%にも及び、民間賃貸住宅建設促進への助成をはじめとしたさまざまな施策の実施につながり、忠類地域の活性化につながってきたものと考えている。
- (5)定住人口の維持には、若年層の増

を図ることが重要であり、本町では小学生の医療費無料化に着手し、定住促進住宅建設補助事業の創設のほか、コミュニティバスの通学児童生徒の無料乗車や保育所の受け入れ態勢の充実などを進めてきており、いかにして「人が集まる仕組み」をつくり上げていくべきかが、知恵の出どころであると考えている。

問 ふるさと館の必要性は
答 郷土への誇りや愛着を育てるための重要なふるさと資源

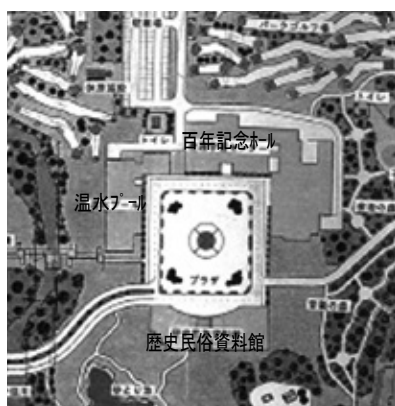
問 ふるさと館と蝦夷文化考古館の複合施設検討の考えが示された。

- (1)どのようにふるさと館を活用し、郷土の歴史・文化の正しい理解につなげていくか。
- (2)百年記念ホールに温水プールと歴史民俗資料館を併設する計画は。
- (3)建て替える場合の財政計画は。

教育長 (1)例年、町内の小学生の社

会科見学などや農村ホームステイの大阪府立高校生の見学などの際には、ふるさと館に案内し、本町の歴史を説明している。また、町民を対象にした「史跡めぐり」や小学校5・6年生を対象にした「ジュニアスクール」などで子供たちが開拓時代の先人の苦労を知るとともに、本町の歴史を学ぶことにつながっているものと考えている。

- 今後、ガイドブックの配布や新たなポスターの作成により、多くの町民に、郷土の歴史に関心を持ってもらう機会を提供していきたい。
- (2)第4期総合計画において、財源的なめどが立たないことから両施設の整備計画が盛り込まれず、現在に至っている。
- (3)具体的な計画にはなっていないが、補助金や有利な起債の活用を含め、後年次に過度の財政負担を招かないようにと、考えている。



平成6年当時の百年記念公園の配置図 (スマイルパーク)